

平成28年度

第1回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 平成28年5月16日(月)午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 6階 第二会議室
3. 議 題 (1)「教育等の振興に関する施策の大綱」について
(2)平成28年度予算における教育分野の主な取組について
4. 出席者 菊地啓夫市長、佐藤雅晴委員長、小林修子委員長職務代行者、
藤川チユキ委員、百井崇教育長
5. 欠席者 南館公雄委員
6. 出席補助職員
熊谷良哉副市長、鈴木隆夫総務部長、吉田章健康福祉部長、
木皿光夫市民経済部長、高橋伸明建設部長、家田康典総務部参事、
佐藤修司参事兼学校教育課長、高橋弘昭生涯学習課長兼スポーツ振興課
長、菅井秀一参事兼政策企画課長、森俊幸政策企画課主幹兼秘書係長
7. 傍聴者 なし
8. 本会議の書記
山下真理子教育総務課総務係長
9. 開会 午後2時59分
10. 閉会 午後4時08分
11. 議事録署名人
藤川チユキ委員
12. 事務局職員
高橋進教育次長兼教育総務課長事務取扱、沼田輝明教育総務課長補佐、
山下真理子教育総務課総務係長
13. 議事の経過
以下のとおり

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

本日は、南館委員が所用のため欠席となっております。

只今より平成 28 年度第 1 回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして、菊地市長より御挨拶をいただきます。

菊地市長

本日は、お忙しいところお集まりをいただきましてありがとうございます。委員の皆様には、学校行事、地域活動の御協力に感謝申し上げます。

平成 28 年度がスタートしました。昨年 12 月の本会議における 28 年度予算の中に、要望を受けた中身をできるだけ反映させたいという思いで 28 年度事業を組ませていただきました。本日は、その内容を含めまして、学校の環境整備ということで安心安全のために御意見をいただきながら進めていきたいという思いから、この会議を開催させていただきました。岩沼の子どもたちを大事にしっかりと育てたいという思いは同じですので、忌憚のない御意見をお願いします。

市の事業についてお話申しあげます。28 年度は復興最優先とさせていただきます。おかげさまで、4 月 28 日に仮設住宅を全て閉鎖させていただきました。多くの方々の御協力の賜物です。被災者の皆さんは自立し、新しい生活をスタートされました。皆さん感謝されており、本当にありがとうございました。少しずつ新しい生活になじみ、これからは生きがいづくりを進めていきたいと思っております。国も 5 年をひと区切りとし、これからは心の復興、復興の総仕上げの段階としており、岩沼市もそれに沿っていきます。復興の完成にはもう少し時間がかかりますが、引き続き御協力をお願いしたいと思います。

熊本の地震があり、本当に自然災害の恐ろしさをまざまざと見せ付けられました。5 年前と同じ状況が今続いておりまして、一月经過しましたが、現地ではまだ混乱しているように見られます。岩沼市からも益城町に職員を派遣いたしまして、ノウハウを提供し復興のお手伝いをしてきました。連絡をとりながら、今後も必要な情報を最大限提供

し、必要であれば職員を派遣していきます。普通の安定した生活を見据えて、1日も早い復興になるよう取り組んでいただきたいと思います。

28年度は地方創生の元年です。岩沼市も乗り遅れないよう、地方創生の提案事業を出していきます。中には学校の環境整備や生きがいつくりなど地域の特性を生かした提案をしているわけですが、なかなか提案内容を認めてもらえないと頭を悩ませています。県内35自治体のうち、今回の復興加速化計画の中では21の提案事業が認められました。県内の各自治体が3つずつ提案し、半分は落とされた中、岩沼市は提案3つ中3つが認められたことは、すばらしいと評価を受けています。今から具体的な中身をしっかりとさせていきます。地方創生そのものは、人口を減らさない対策です。我々のとるべき方法は、子どもたちの安心安全につながるような、子どもたちを大事にするような政策をしていきたい。さらには、観光にも力を入れ、広域連携も考えていきます。亘理町、名取市、山元町とも組み、二市二町一緒になって地方創生の中で提案をしていきます。向こう5年間の補助対象になるわけですが、まさに職員の資質が問われ、自治体間の競争と言っても過言ではありません。そのような状況の中、岩沼市一丸となって地方創生に取り組んでまいります。教育の関係も提案させていただきますので、御協力をお願いします。まずもって、子どもたちの教育をしっかりと取り組むことが基本でございます。28年度はそのスタートですので、できるだけ要望に沿った形で28年度予算を組ませていただきました。引き続きよろしく申し上げます。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、佐藤教育委員長より御挨拶をいただきます。

佐藤委員長

それでは、一言御挨拶を申し上げたいと思います。本日は、菊地市長様には大変お忙しい中、3回目の総合教育会議を開催いただきましてありがとうございます。

昨年4月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正、施行されました。教育を学校面から検証して地域特性等を教育に反映し、また、設置者の責任義務を明確

化するために改正されました。教育委員会としましても前向きにとらえ、協力していくつもりです。特に菊地市長さんには、教育最優先のまちづくりをテーマに掲げていただき、教育環境の整備にいち早く着手していただくなど大変ありがたく思っております。

よく社会一般の風潮といたしまして、教育委員会と保護者、学校と PTA など、対立軸として教育を論じられることが多いですが、幸い岩沼市におきましては、児童生徒を最優先として関係者並びに教育機関が同じ方向を向いて教育環境の整備に当たっていることは大変ありがたいことだと思っております。時代は刻々と目まぐるしく変化しているわけですが、教育委員会といたしましては、岩沼で教育を受けた子どもたちが社会に巣立ったときに岩沼で育って良かったと思ってもらえるように努力していきたいと思っておりますので、引き続き御援助賜りますようよろしくお願いいたします。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

それでは協議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第 4 条の規定によりまして、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

菊地市長

それでは規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、議事録署名人を決めさせていただきます。今回は、藤川委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

議事録署名については、藤川委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

議題に入らせていただきます。(1)「教育等の振興に関する施策の大綱」について、

事務局から説明をお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

お手元の資料1ページ、2ページをご覧ください。昨年、教育基本方針を基本に別紙のとおり教育大綱を策定したところですが、大綱の対象とする期間設定がされておられませんので、今回、その対象期間を協議、調整させていただきたく思います。

対象期間の考え方としまして、国においては、長の任期が4年、教育振興基本計画の対象期間が5年であることに鑑み、4年から5年程度を想定しているとのことです。参考として、他の自治体について紹介させていただきます。宮城県は平成27年度・28年度の2カ年となっております。県では、新しい教育振興基本計画を策定中であり、その初年度が平成29年度となっていることからでございます。

仙台市と名取市は総合計画の終期が平成32年度までとなっており、27年度から32年度を対象期間としています。

本市におきましては、総合計画にあたる「いわぬま未来構想」は、平成26年度から35年度までの10年間を計画期間としております。その目標年度に整合を図るとすると35年度までの9年間ということになりますが、よそと比べると長くなるものと考えます。国が5年と想定していることと、いわぬま未来構想との整合を考え、中間の4年ということにすると、ちょうど菊地市長さんの任期も平成30年度までということでありまして、平成27年度から30年度までを期間として設定してはいかがかと思います。協議、調整のほどよろしく願いいたします。

菊地市長

私の任期に合わせるというより、4年か5年をひと区切りとするのが適当と受け取りました。27年度から30年度までを対象期間とするということでもよろしいでしょうか。

構成員

はい。

菊地市長

それでは、4年間の30年度までを大綱の対象期間とします。ありがとうございます。
次に(2)平成28年度予算における教育分野の主な取組についてを議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

平成28年度の教育委員会関係予算は、総額で15億2,953万円となっております。継続事業はもとより、学校施設長寿命化計画の策定など新規事業にも応分の配慮をさせていただいたものと考えております。28年度の基本方針といたしましては、ここにお示ししております①学校の教育環境の各種施策の展開、②生涯学習環境の向上に向けた各種施策の展開、③安心して安全に使用できる施策環境の整備となっております。その中での主なものを課ごとに説明させていただきます。

教育総務課関係であります。学校の教育環境の向上に向け、施設・設備の不具合に対する計画的な維持補修等の実施と学校施設の長寿命化を見据えた整備方針等を策定することとしております。

学校施設長寿命化計画の策定においては、老朽化等の実態把握を行った上で、学校施設整備の基本的な方針等を明示し、学校毎の今後の改修等の内容や時期、費用等を整理し、年次計画を立てる予定にしております。学校トイレの洋式化の加速においては、岩沼小学校と玉浦小学校の全部のトイレを洋式化することとしております。

学校のICT関係においては、中学校教育用パソコンの更新時期に併せて、中学校にもタブレット端末を導入する予定です。また、中学校教員校務用パソコンの配備のほか、27年度に行った小学校教員校務用パソコンの追加配備をすることとしております。

児童生徒の安全確保等を優先にした小中学校施設・設備の維持修繕においては、食器洗浄機など給食用を中心とした管理備品の更新や非常用放送設備の修繕、転落防止の手摺りの設置のほか、環境に配慮し西中体育館照明のLED化などを行うこととしております。

なお、28年度の予算ではありませんが、春休み中に学校の体育館へAEDを1台ずつ配置しました。飲料水製造販売メーカーの社会貢献活動を活用したものでして、自動販売機の設置を条件に無償で配置したもので、既存のものを加えて学校には2台のAEDを配置したことになります。安全確保策の1つとして紹介させていただきました。

教育総務課につきましては、以上であります。

菊地市長

学校教育課の説明をお願いします。

佐藤参事兼学校教育課長

「夢をはぐくみ、愛のある教育」の一層の充実を図るために、学校長の学校経営を全面的にサポートしていきます。支援していく点は3点あります。1点目は学力の向上、2点目は豊かな心の育成、3点目は教育環境の整備です。

1点目の学力向上については主に3点お話いたします。1点目は学力向上推進事業です。夏季休業、冬季休業において「学び塾」を開催し、地域の方や大学の支援をいただき、学校を巻き込みながら学習習慣をつけていき、生徒の学力向上に取り組んでいきます。この事業は昨年度から実施しております。2点目は総合的な学習の時間・特色ある学校づくりの推進事業です。岩沼市の学校づくりの最大の特色はここにあると思います。校長の裁量で特色ある学校経営ができるよう、しっかりとサポートしていきたいと考えています。3点目は校内研究・充実推進事業です。教育委員会には教育指導専門監がおりますので、各学校に年3回訪問し、授業に参加し、校内研究に対しての指導助言をすめるものです。教員の指導力が向上すれば、間違いなく児童生徒の力につながっていくものです。

2点目の豊かな心の育成については主に2点お話します。1点目は夢あこがれプロジェクトの展開です。仙台フィルの演奏、西村雅彦さんの読み語り、企業や大学の支援を受けながら開催するものです。子どもたちが本物に触れる機会をたくさん提供します。本物に触れた喜びを自らの成長のエネルギーに変え、やがては岩沼で活躍してくれる人

材育成に繋がっていくものだと思います。2点目はスクールカウンセラー配置事業です。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、相談員との連携を図りながら一人ひとりを大切にし、心を育て、いじめ、不登校防止を図っていくものです。

最後に教育環境の整備についてということで小中学校支援事業です。28年度は、小中学校の指導助手、支援員を30名ほど配置させていただきました。子ども一人ひとりにきめ細やかな対応ができ、教育環境の整備を行っていくものです。

これらが各学校長の学校経営を支援する3点です。これらのことによって子どもたちは未来を切り開く力が身に付き、たくましい姿になっていくと思われまふ。そして子どもにとつても保護者にとつてもより魅力的な教育環境を構築し、通いたい通わせたい学校を目指したいと考えています。これは岩沼市が進める地域創生的一端を担うものと思つておりますのでよろしくお願ひします。

菊地市長

続いて生涯学習課の説明をお願いします。

高橋生涯学習課長兼スポーツ振興課長

誰もが学べる生涯学習環境の向上のため、市民ニーズを踏まえた学習機会の確保と施設・設備の適切な管理運営を行つてまいります。

第二次生涯学習推進計画に基づく生涯学習事業の実施については、4小学校それぞれ放課後子ども教室の運営や各種講座などを通じて、生涯学習を推進してまいります。

市史編纂の推進につきましては、計画に沿つて編纂作業を進め、近代の資料編発行800冊、子ども市史の増刷300冊を予定しております。

埋蔵文化財包蔵地の適切な保存と調査の実施については、五間堀川改修、北部・西部地区ほ場整備に伴う文化財発掘調査を行います。

社会教育施設等の管理運営につきましては、開館30年目を迎える市民会館、公民館、市民図書館の適切な管理運営を行うとともに、施設の長寿命化を見据えた計画的な整備方針策定を進めてまいります。

続いてスポーツ振興課に移ります。スポーツ環境の向上のため、施設・設備の適切な管理運営と効率的な管理運営の検討を行ってまいります。

社会体育施設の管理運営につきましては、総合体育館などの適切な管理運営、多目的グラウンドの再開に合わせた備品整備を行うとともに、指定管理者制度の活用等を含めた施設の新しい管理運営体制づくりの検討を進めてまいります。

全国高校生銃剣道大会、今年で25回目を迎えるエアポートマラソン大会につきましては2000人の参加を見込み準備を進めてまいります。関係機関等と連携しながら、適切な運営を行ってまいります。

菊地市長

只今、説明がございましたが、質問がありましたらお願いいたします。

小林委員

1番気にしていることは教育環境の整備ということです。先ほどの定例会で、小中学校の指導助手さん、支援員さんが活躍され、子どもたちの集団行動がスムーズにできていることや、子どもたちのニーズに沿った支援ができており、先生方も充実した教育ができるようになったという報告をお聞きしました。非常に嬉しい限りだと思っております。以前も申し上げましたが、いじめの問題にしても、教職員の心のゆとりが何より大切です。子どもと接する時間が多くなれば多くなるほど見つける機会も多くなりますし、きめ細やかな対応ができますので、この点からも大変好ましいことだと思います。

最近のニュースでUSBの持ち出しによる個人情報の流出問題がありました。そのようなことと絡みまして、教職員の仕事は学校内で全部完結しなければならないという現状があります。学校での仕事が膨大であれば、子どもと接する時間が減ってしまいます。役割分担をしていくという面からも市のほうで支援してくれる助手さんがいると先生方が子どもに力を注げますので感謝しているところです。問題が出てくるのはモノよりもヒトです。ヒトがいかに働けるかという条件を整えるためのモノです。そういった面から整備していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

菊地市長

指導助手、支援員という方々は先生方をサポートするのに大事なことがわかります。先生に余裕がないと子どもたちに対する教育が疎かになってしまうと私も思います。そういう意味では、先生方の荷物を持ってくれる人がそばにいるというのは良いと思います。それでもいじめや事故が起こる可能性はありますが、やれることは最大限にやろうという岩沼ならではの事業だと思います。子どもの数はピークが過ぎた状態だと思っております。今一番多い西小学校は1000人を超えていますが、これから減っていくでしょう。ぎりぎりのところで今後も4小4中でやっていけると思っています。これからも人数の多い学校はしっかり対応しなければと思います。

小林委員

子どもの人数は多すぎても少なすぎてもだめなのです。小さな学校で勤めたことがあります。人数が少ないと集団活動での役割分担が適材適所にいかないし、もっと役割を持たせたいときに子どもの数が足りないことがあります。例えば部活動でやりたいスポーツができないというしわ寄せも出てきます。玉小の人数が増えて今年3クラスになったと聞き喜んでいますが、バランスよく住宅が建つようにするなど行政は考えていただけるとありがたいです。

菊地市長

多くても少なくてもだめというのが教育なのです。競争も必要です。目が行き届かなくてもだめでしょう。部活の話が出ましたが、柔道などしっかりとした指導のもと部活動ができればと思いますが現状はどうなのでしょう。

百井教育長

職員数が減ったために部活の数を減らしたり、教員が得意な種目かどうかは別なので、やったことがない種目を受け持っている人も結構いますし、外部指導者で充当もしております。特に柔道は事故が多いスポーツですので熟練した指導者でないと怖いところがあります。

小林委員

社会体育との連携といいますか、教職員だけでなく外部指導者が活躍する場があるとなお部活動の運営がスムーズにいくことがあると思います。

百井教育長

岩沼では当てはまりませんが、過熱しているところは子どもの生活を考えた部活になっていないことがあります。学習と部活動のバランスを取りながら、教職員の生活を考えた運営をしていかないといけません。土日も出てきたり、夜7時までやっているようなことは問題ですので、今整理をしております。外部指導者の協力を得られればなお良いと思いますし、種目の秀でた人の指導は違うので子どもにとっても良いチャンスだと思います。

佐藤委員長

学校教育の中での体育スポーツ、社会体育での競技スポーツがあります。教育の中で専門的なスポーツ競技をどの程度容認するのか、教育委員会で考えていかなければいけない問題だと思います。学校週5日制で2日の休みのうち1日は社会教育の方で子どもたちが地域となじむ機会になると良いのですが、生涯学習の分野での受け皿づくりがなかなか進んでいない状況です。学校を1日クローズにして地域に返しましょうということがあったのですが、再びその1日を学校で受け取らなければいけなくなっています。親の勤務体制の体系変化もありますが、生涯学習分野、家庭教育分野に積極的に働きかけていかなければいけません。単年度予算という枠組みがあり、事業は1年ごとですが教育は長いスパンで考える必要があります。教育施設は本来の機能を果たせていない部分があるように思います。仏を作って魂入れずの状態とでも言いましょうか、生涯学習では生まれてから次の世界に旅立つまでの間にその人間が全人格的な設計をし、そこで何をしなければいけないか、それに対応する裏づけを作っていかなければいけません。家庭教育の教育力を見ますと大家族や伝承文化の中で教育されていた時代に比べて、子どもたちは伝承文化や地域社会の中での身の処し方を分かっていないように思います。

家庭教育の教育力が落ちているところを学校にしわ寄せが来ているように思います。教育は社会教育、学校教育、家庭教育のバランスが必要です。地域に返った施策を作らなければいけないし、地域コミュニティの問題もあります。今後、考えていかなければいけないことと思いますがいかがでしょうか。

菊地市長

社会、学校、家庭がうまくリンクすると子どもたちは良くなるように思います。残念ながら地域と家庭が受け皿としてはしっかりしたものになれていない気がします。子どもたちが減り、子どもたちが地域で遊ぶことが無くなり、子ども会が弱体化、地域も弱体化していますが、年配者は昔の話はできても今の解決策を示せません。ましてや若い母親は、できたら手を抜きたいと思う部分があって活動しないので非常に難しいと思っています。地域の役割、家庭の役割とは言いますが、行政に注文されることが多くなりました。例えば児童館でもっと預かってくれ、教育は学校ですべきだということです。児童館の待機児童もいますが受け皿が間に合っていません。28年度は西児童館にプレハブを建てる予算を組んでいます。教育とのリンクはどうしたらよいのか、別々でいいのか私にもわからないところではありますが、経験したことの無いところを進んでいる状態です。生涯学習の施設は今後民間の力を借りなければいけないと思っていますし、どのように利用者の理解を得ていくか、話をしなければと思っています。

藤川委員

スポーツ施設、文化施設は適切に市民サービスの提供ができないと持っている意味はありません。運営については民間の方がニーズの把握に長けていると思います。市の施設だと市民の方が無茶を言うことがありますが、民間だと規則のもと例外なく厳しい姿勢をとり、結果、公平な対応ができるような気がしています。迎合しすぎて内容が粗雑にならないよう、こちらの注文をつけることができる状況を確認していくことが必要です。民間でできるものを市で持っている必要はありません。極端に言うと部活は学校から離れたほうが良いと考えています。今の子どもたちは体力が落ちていることもあり、

学校の教育としては重要だと思えますし、放課後に運動する機会があることは良いことだと思えますが、民間で盛んに行われているサッカーやバドミントン、野球などは市で一括してスポーツクラブにしてしまい、中体連の参加もその単位で参加できるシステムにすれば、学校では緩やかに楽しみたい人に運動の機会を提供できるようになると思います。勝ちにこだわりたい人はスポーツクラブに移籍し、週に1度楽しみたいという人は部活というような住み分けができるようになれば、学校の先生も大会前に夜7時までがんばるといふことも無くなるでしょうから完全に午後6時で終わることができます。学校の枠とそれ以上やりたいという人の枠を別にしてしまうのがいいのかなと思います。それには子どもたちの交通手段や場所、システム的なこと、スポーツ団体との協調など難しい点はあると思いますが、学校の教育の範囲を考えたときにどこまでの部活を持っていなければいけないのか、これからも保持できるのかということ考えた方がいいように思います。

菊地市長

社会体育全体に言えることだとは思いますが、線が引きづらいために、学校、民間、スポーツ少年団、市民団体などの住み分けができず、スポーツというひとくくりにしてしまっているところがあります。市の施設はできるだけ使ってほしいと思いますが、民間でできるものは民間でやってほしいという思いもありますので、検討する必要があるのではないかと思います。今、市役所では公共施設等の総合管理計画というものを作りました。道路、橋、学校、市役所まで全部公共施設として位置づけし、それを現状分析しています。メンテナンスや建替え時期など具体的な計画が今後必要になってきます。施設を維持していくことは相当な金額がかかります。スクラップや統合をして新しいハコモノを作る必要も出てくるでしょう。利用頻度や使う目的に応じて見直しをすることが総合管理計画の趣旨であります。学校についても調査させていただいて、28年度には具体的な計画を作りたいと思っていますし、施設の維持管理方法も見直します。御意見を伺いながら実現していきたいと思っています。

小林委員

総合管理計画とは具体的にどのような構成、予定で進めているのでしょうか。

鈴木総務部長

役所の抱えている施設を維持するだけでも相当な金額がかかります。長期的に見通しを立て、機械的にですが維持費がいくらかかるか計算しています。全体の費用を算出しますと一般財源では負担し切れない額になることが見えています。適正規模で公共施設を維持していくために、施設の統合・廃止も考え、施設を種類別に整理し計画を立てていきます。昨年は全体像を把握し、今年度から施設ごとの見通しを具体的に検討していきます。ハコモノについては受益者負担の割合もどのレベルが適正か検討していきます。それから、施設は上手に管理すれば長持ちするので管理の仕方についてマニュアルを作って取り組んでいく計画です。

菊地市長

教育部門でも28年度中にいづらかやっていきたいと思います。安全に使うことが大前提ですが、いずれ人口が減り、税収減、高齢化が進んでいくので財源が維持できなくなります。ですから早いうちに本当に必要な部分だけ、必要なものだけ作っていく、不要なものはできるだけ少なくしていかないと維持できません。20年か25年後には岩沼の人口も4万人を切ると言われています。地方創生では人口を維持するにはどうしたらよいかということを考えています。岩沼市はこの10年で子どもの数がずいぶん減り、本当に目に見えて人口が減っていきます。10年先、20年先を見据えて、今やらないといけません。他からお年寄りと呼ぶというのではなく、今住んでいる人たちに長く住んでもらって、若い人たちを増やしていきたい。そのためには何をすべきか探っているところです。

佐藤委員長

泉区のすばらしい住宅地があった将監や加茂でも子どもの数が減っていて学校統合の話が出ています。これは一世帯一住宅の結果、新たな宅地が無いので新しい人が入っ

てことなく20年前に住んでいた人たちの構成になっているためです。巢立った人たちは他のところで世帯を持つようになり、古い宅地の虫食い状態のところに若い人たちを呼び込むことは難しくなっています。逆に安くて住み良い環境の宅地を提供すれば新しい人たちが入ってきますので、そういう施策がとれば若年層の人口を維持できるわけですが、地域の実情もあります。今、恵み野は若い世帯が増え、玉浦小学校の人数が増えています。それはそこに昔から住んでいた人が努力して人口を増やしたわけではありません。そのような現象があることを行政が考えてまちづくりをしていってほしいです。岩沼は生活しやすいという話を聞きます。泉区に比べて冬の暖房代が10万円違うとか。しかし、その良さが発信されていないように思います。ある市長さんに公設民営の刑務所誘致について話をしたことがあります。2000人の人を入れるために2000人の刑務担当の人が来るようになります。家族も含めるとすごい誘致になり、それで潤っている街もあります。施設に対する負担は年々多くなりますので、今後は大胆な長期構想が必要になってきます。もうひとつは、民間活力をどうするかということだと思います。それは施設も人材もです。冗談で、うちも手を入れてもらえるのだったら避難所になってもいいよと話したことがあります。公務員だとひとつの施設を管理するのに3人必要ですが、私は24時間そこにいるわけですから、そういう施設を弾力的に利用していくというのもひとつの方法だと思います。生涯学習関係で人材の輪を拡大していかないと地域コミュニティや教育の作用は限界にきていると思います。特に核家族になっている今、親が親として何をすべきか、伝承されることは少なくなりました。社会性を培いながら人間らしく生きていくためには家庭教育に力を入れることが大事で、しつけまで学校で行うような時代では学校教育がパンクしてしまうように思います。1番は学校職員の多忙化解消をどうするか考え、積極的に民間の生涯学習活動を取り入れながら幼少年教育に力を入れた抜本的施策をしていかないと学校教育自体が成り立たなくなると思います。最終的に公共から民間の教育機関に子どもたちが移ってしまうようなことは岩沼では阻止したいと思います。

菊地市長

従来のままでいいかというところではなく、教育も進化していますし、世の中もグローバル化しています。それに合わせたような教育が求められていくと思います。それについていかないと世の中に良い人材を輩出することに無理があるようになります。まずは人間的にしっかりした子をつくるのが基本です。家庭も地域も子どもにしっかり向き合っていくことを作り上げていきたいと思います。見守りも含めてやっていきたいと思っています。いじめがだめだという意識を子どもたちも親も学んでいただきたいと思っています。子どもを守るという目線が大切です。学校の皆さんにもよろしくお願ひしたいと思っています。

議題としては2題お話させていただきましたが、議題の中で無ければここで打ち切らせていただいてその他に入らせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

構成員

はい。

菊地市長

それでは議題を終わりにしたいと思います。3 その他は事務局からお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

熱心な御議論、御苦勞様でございました。その他に入らせていただきます。皆様から何かございましたらお願いします。事務局からは特にございません。無いようでしたらこの会を閉じさせていただくということでよろしいでしょうか。

菊地市長

よろしいですか。

構成員

はい。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

以上をもちまして、平成28年度第1回総合教育会議を閉会させていただきたいと思

います。ありがとうございました。

(午後 4 時 08 分閉会)